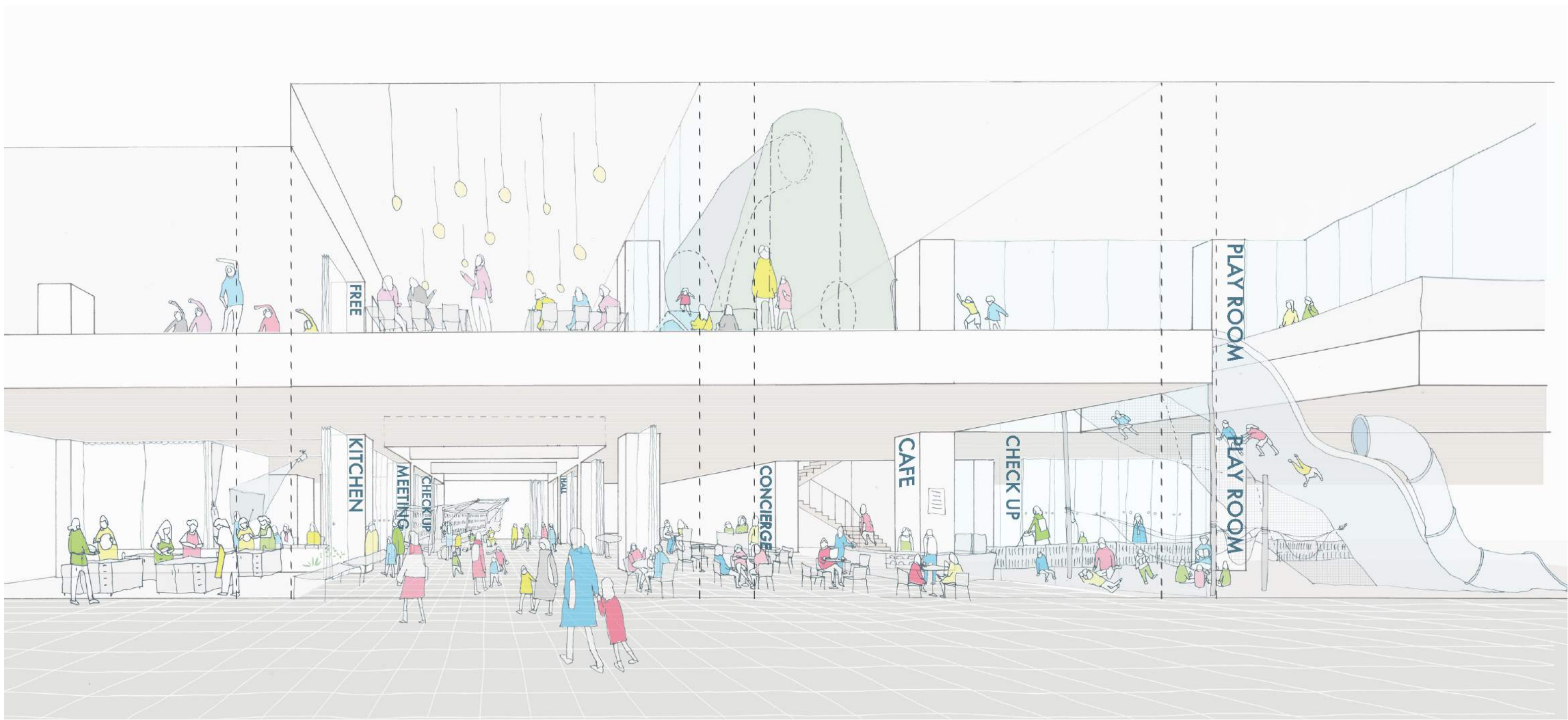




(仮称) 北上市保健・子育て支援複合施設基本設計 (案) 説明書 - 概要版 -

令和元年 7 月 北上市

施設の位置付け

00. 新たな拠点「北上市保健・子育て支援複合施設」の6つの役割

北上市保健・子育て支援複合施設は、北上市の保健行政、子育て支援行政の新たな拠点施設として構想され、以下の6つを主な役割として想定しています。

- ① **保健と健康づくりの拠点施設**
- ② **子育て世代に対し切れ目のない支援を行う施設**
- ③ **市民の生命に関わる諸課題に取り組む施設**
- ④ **天候に関わらず子どもたちが思い切り遊べる施設**
- ⑤ **多世代が利用するコミュニケーション施設**
- ⑥ **まちの魅力を高める施設**

また、市内ツインモールプラザ西館をコンバージョンし、整備する施設であり、既存資源を生かしたストック型社会のモデルとなることを目指します。



新施設に整備する機能

01. 既存の保健・子育て支援機能の拡充・拡張による新しい拠点

・機能充実を図る市町村保健センター

地域保健法に基づく市町村保健センターである北上市健康管理センター（昭和51年施工・昭和52年供用）及び江釣子保健センター（昭和53年施工、昭和54年供用）は、いずれも面積不足、老朽化の課題を抱えています。そこで、この計画では、**新たな拠点的な市町村保健センター**として健康相談、保健指導及び健康診査その他地域保健に関し必要な事業を行うことを目的とし、さらに、母子保健に関する相談や指導を行う**子育て世代包括支援センター**の機能を併せて整備します。

・妊娠初期から子育てまで切れ目のないサポート "子育て世代包括支援センター"

妊娠初期から子育て期にわたる切れ目のない妊産婦、親子の支援を行うことにより、心の拠り所となるとともに、児童虐待などを未然に防ぐサポート機能を果たします。

・子育てを多側面から支える地域子育て支援センターと室内遊び場

子育て世代の育児不安の増加や待機児童の増加などの社会的背景の変化を受け、相談指導、子育てサークルなどの育成支援、講習・講座などを開催できる、子育て支援センターを整備します。特に市民ニーズが高い施設として、積雪期や降雨時も子どもたちが思い切り遊べる室内の遊び場や一時的保育室を設置し、市民の要望に資する総合的な子育て支援拠点として整備します。

02. 多世代の市民の居場所を創出する複合機能

利用者を限定せず、多世代の市民にとって居場所となるような施設を目指します。展示やレクチャーを開催できる「北上市市民交流プラザ」やマルシェやお祭りにも活用できる「まちいく広場」、複数の飲食スペースや交流スペースなど、施設に多様な居場所を創出します。

新施設概要

■敷地概要

計画地： 北上市新穀町一丁目269番
敷地面積： 3886.62 m²
用途地域： 商業地域

■建築計画概要

主要用途： 保健施設、行政事務施設、子育て支援施設等
建蔽率： 90%
容積率： 450%
床面積： 1階 2164.69 m² / 2階 1728.01 m² / 延べ 3892.70 m²
階数： 既存建物8階
改修範囲： 1階及び2階
駐車場： 北上市営本通り駐車場（西館278台、東館1,201台）

■構造計画概要

構造： 鉄骨造（既存構造物）、一部吹抜け補強

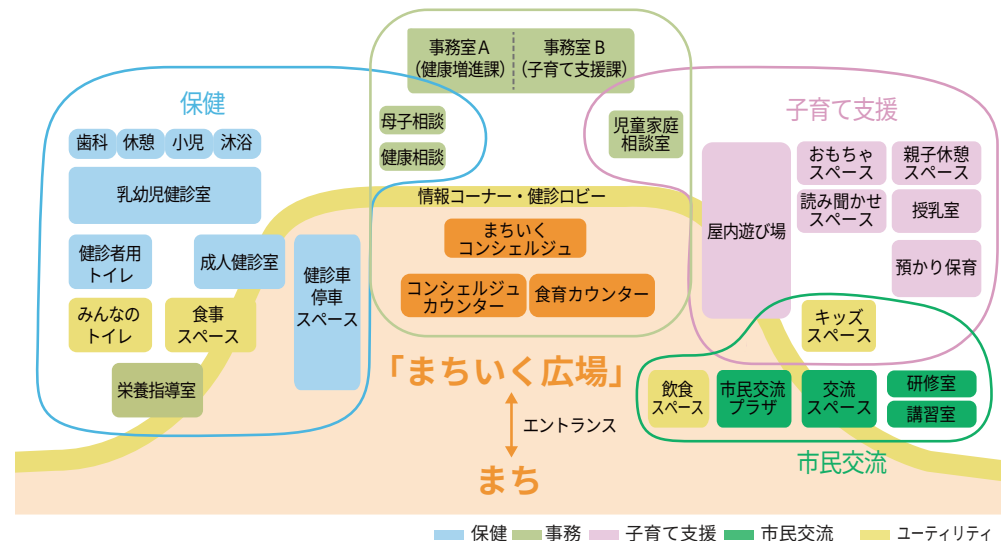
■施設配置図 S=1/5000



施設コンセプト

街とつながる「まちいく広場」を中心とした各機能の連携

基本計画に掲げられた多様な機能同士が連携を取りやすい配置とします。そのために、多くの機能が一堂に会する空間「まちいく広場」を建物南北に貫通して計画し、それに直交する東西に「情報コーナー」を計画します。保健・子育て支援機能の主な諸室はこのまちいく広場に隣接し、使用状況によって広場に伸縮性を与えます。さらに、まちいく広場と情報コーナーの辻にはコンシェルジュカウンターを配置します。複数課の行政スタッフや子育て・健康など、地域の専門家（介護・食育・昔遊び・農など）の連携拠点となります。



すべての人に開かれ、保健と子育てをつなぐ「食育」をテーマとした施設

制度上の機能を利用しない市民も立ち寄りやすい施設を目指すとともに、「保健」と「子育て」をつなぐものとして、「食育」が重要だと考えます。施設の行政機能を強化・拡張するテーマとして「食育」を提案し、その拠点となる空間を創出します。食育カウンターはまちいく広場に独立して設置し、毎日異なる食の専門家が立つなど、市民の食への新しい発見や、交流につながります。

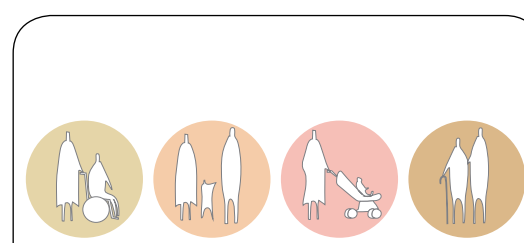


周辺の施設や活動との連携



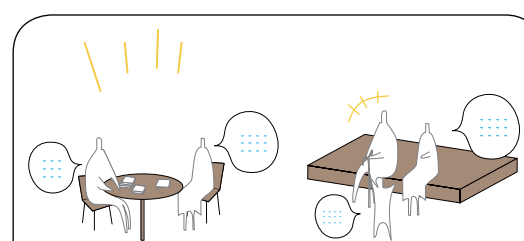
周辺の様々な施設や活動のハブになる施設を目指します。ハードとソフトの連携によって、市民のみなさんが多様な情報や人、活動と出会う機会をつくります。

ユニバーサルデザイン



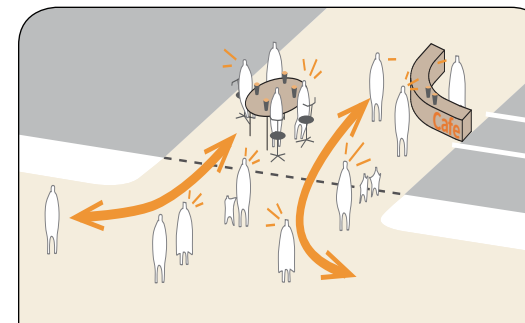
段差が生じる部分にはスロープを設け、みんなのトイレや授乳室を設置するなど、多様な人・世代の方の利用しやすい設えをつくります。

様々な種類の居場所を創出



腰を下ろして落ち着ける小上がりや、カフェのようにくつろげるテーブル席など、共用部に様々な種類の居場所をつくります。

街ににぎわいをもたらすまちいく広場



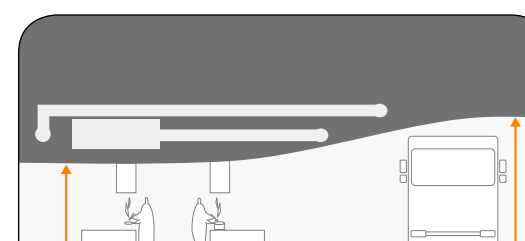
「まちいく広場」では様々な活動が可能です。カフェや待合い、相談、情報発信や各種イベントなど様々な活動によって賑わいを生み、街の魅力を高めます。

コンシェルジュカウンターの設置



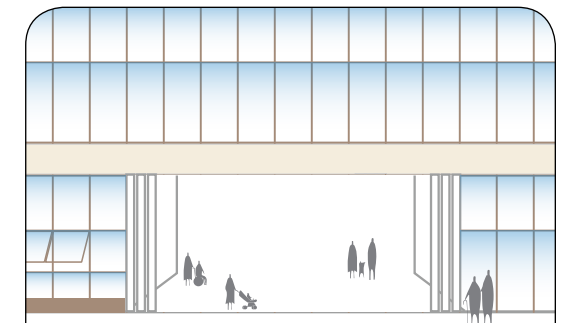
地域のボランティアや職員による「まちいくコンシェルジュ」が専門的な相談に乗ってくれる「コンシェルジュカウンター」を設置し、住民の豊かな暮らしをサポートします。

なめらかに施設全体を包む天井



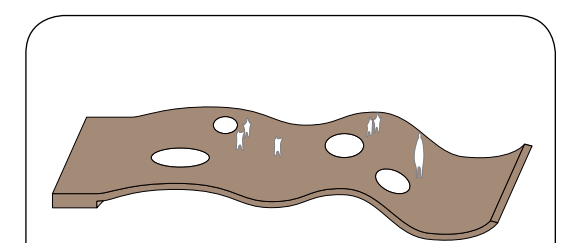
部屋の使い方によって適切な天井高さを設定し、その高低差を利用した配管ルートとします。天井の段差の生じる部分をなめらかにつなぎ、施設全体をおおらかに包む天井とします。

明るく開放的な外観



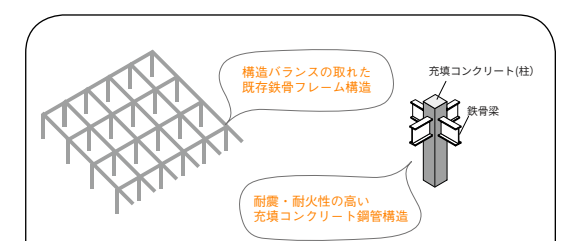
新穀町商店街に面してたくさんの窓を設けます。諸室の採光面積を確保しつつ、内部の様子が見える明るいファサードをつくります。

子どもたちが思い切り遊べる室内遊び場



1階街路側からまちいく広場吹抜け上部に室内遊び場を構成します。立体的に広がる遊び場は交流の起点となるとともに、一室空間でありながらさまざまな年齢層、遊び方に対応した場となります。

既存建物を活用した構造・設備計画



既存躯体構造はコンクリートを充填した頑丈な柱と鉄骨でできた耐震性の高い構造です。この既存構造を活かし、吹抜けなどに適宜補強をする合理的な構造計画です。

(仮称) 北上市保健・子育て支援複合施設基本設計に係る活動と経緯

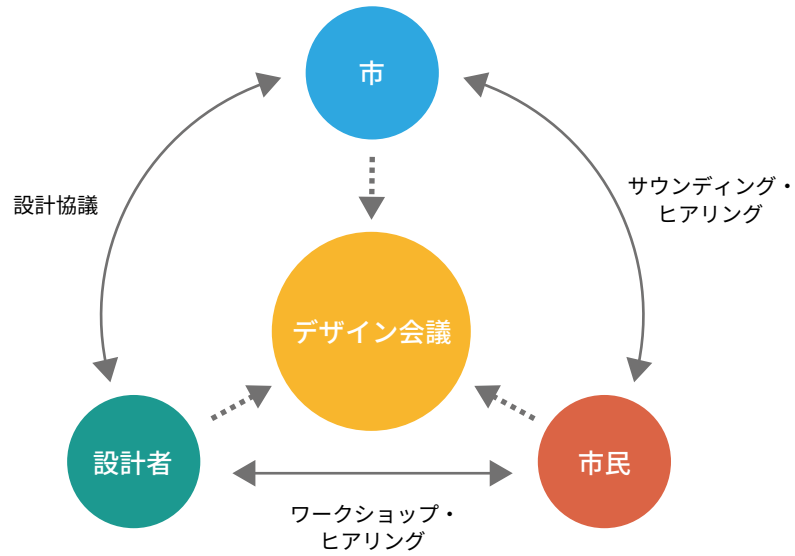
■基本設計等に係るこれまでの主な経緯

- 平成 30 年 10 月 基本計画策定
 10 月 プロポーザル実施広告
 11 月 プロポーザル提案一次審査
 11 月 プロポーザル提案二次審査及び当選者選定
 12 月 基本設計業務委託契約締結
 12 月～令和元年 7 月 デザイン会議の開催

■市民・有識者の参加

平成 30 年度において、都市計画・看護学の学識経験者、建築士・助産師の有資格者、市民、市の職員で構成する北上市健康管理センター等整備デザイン会議（以下「デザイン会議」という）を設置・開催し、基本計画～基本設計完了までの間に計 12 回開催しました。

基本計画中は、整備すべき機能と規模、事業費、設計者選定方法等について検討・協議を重ね、基本設計期間には、プロポーザルによって選定された設計者とともに平面計画、仕様、施設の運営方法等を検討・協議しました。



■計画スケジュール



■デザイン会議



第 6 回 (18.12.21)



第 7 回 (19.01.23)



第 8 回 (19.02.20)



第 9 回 (19.03.27)



第 10 回 (19.04.24)



第 11 回 (19.05.22)



第 12 回 (19.06.19)

■ワークショップ



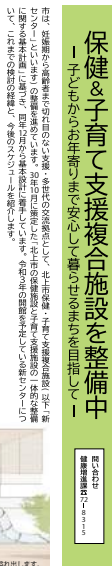
職員ワークショップ (19.03.06)



市民ワークショップ (19.05.15)



■広報、市民ヒアリング等



SNS アカウントの開設 市 HP ページ



市 HP・SNS での広報活動



りぼん橋での模型展示



市民ヒアリング

広報きたかみへの掲載



まちににぎわいをもたらす開放的な外観



1階 / まちいく広場に開けたコンシェルジュカウンター



2階 / 待合にも利用できるキッズスペース



1階 / 食育活動の場となるカフェカウンターと飲食スペース



2階 / 利用者からわかりやすい共用部に設けた情報ロビー

全体構成

■施設の全体構成

施設中央を南北に貫通するようにまちいく広場を設け、そこから各機能を見渡せるよう配置するとともに、コンシェルジュカウンターを設え、来館者にやさしい平面計画とします。東西に貫く情報コーナーは、人の出入りが多い東側からわかりやすい位置に設け、スムーズな動線計画とします。

健診や栄養指導室といった健康・保健管理機能を1・2階西側に、市民交流機能・行政事務機能と子育て支援機能を東側に配置します。また、建物の立面をつくる南側の1階から2階にかけて遊び場が展開し、街に賑やかな顔をつくります。

■まちいく広場による各機能の融合

まちいく広場は検診車駐車場として健診機能として利用したり、市民交流プラザを開放して大きなイベント空間とするなど、各機能を活動ごとに拡張できるフレキシブルな空間です。各機能が1つの室に閉じこもることなく市民に開かれ、多様な世代と活動に対応できる構成となっています。

まちとつながる多様な居場所

まちいく広場、コンシェルジュカウンター、カフェカウンター、情報コーナー・健診ロビー、飲食スペース、キッズスペース

多世代の市民が共に利用できる様々な居場所。

- ・暮らしコンシェルジュ
- ・食育コンシェルジュ
- ・飲食、対話スペース
- ・健康・子育て情報コーナー
- ・健診待合スペース

健康・保健管理機能

成人健診ホール、栄養指導室、乳幼児健診室

市民の保健、健康づくりの拠点。

- ・健康診査及びがん検診の実施機能
- ・健康相談、健康教育の実施機能
- ・栄養指導、食生活指導の実施機能
- ・歯科指導、口腔保健指導の実施機能
- ・特定保健指導の実施機能
- ・乳幼児健診の実施機能

行政事務機能

事務室、相談室

- ・健康増進課、子育て支援課の行政事務の実施機能
- ・各種相談窓口機能
- ・子育て世代包括支援機能
- ・子ども家庭総合支援拠点機能

文化振興機能

市民交流プラザ、交流スペース、研修室、講習室、情報コーナー・健診ロビー

既存施設に併設されていた市民交流プラザの配置変更により、保健・子育て支援活動と一体となった市民交流機能。

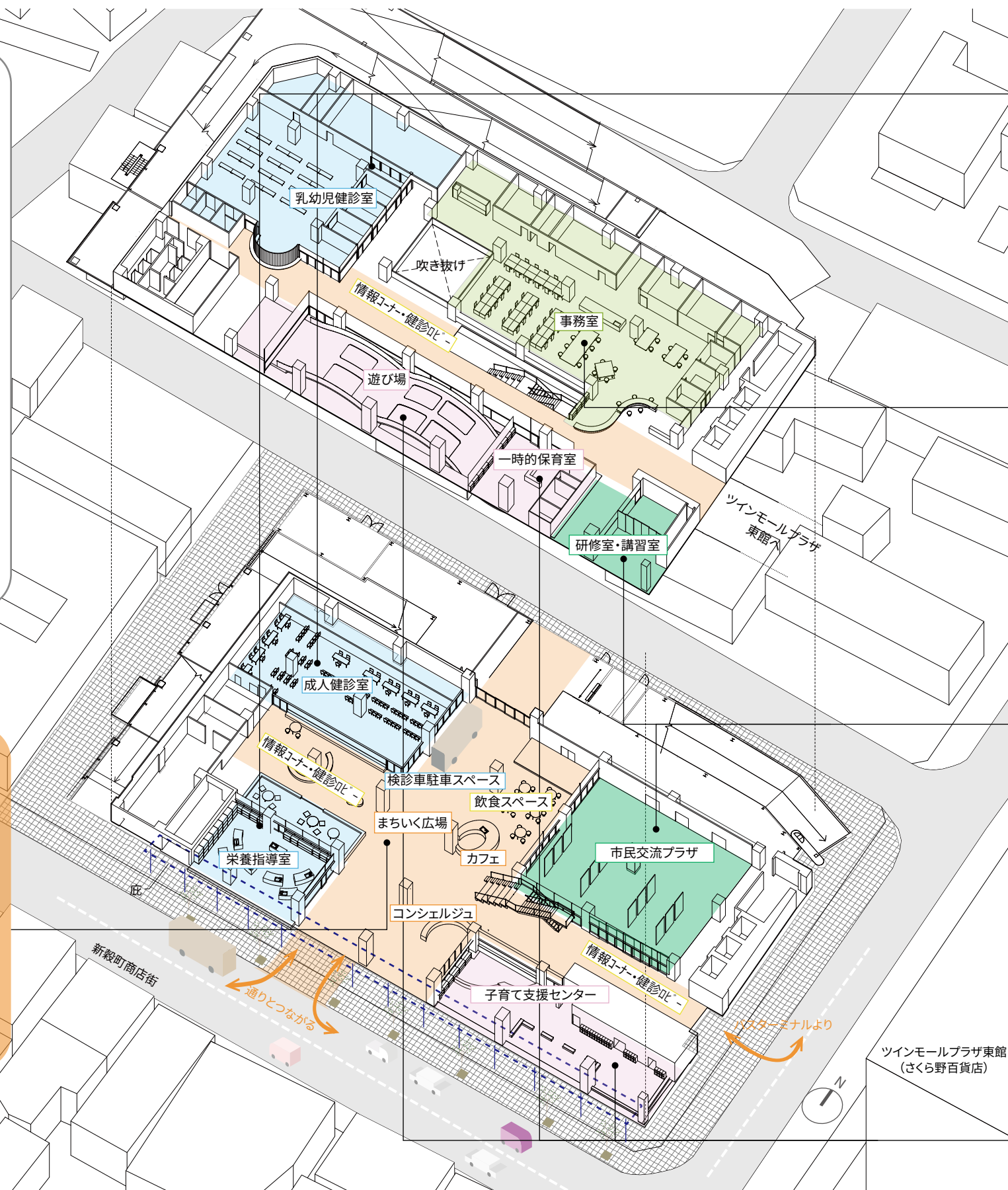
- ・展示機能
- ・レクチャーホール機能
- ・会議室機能

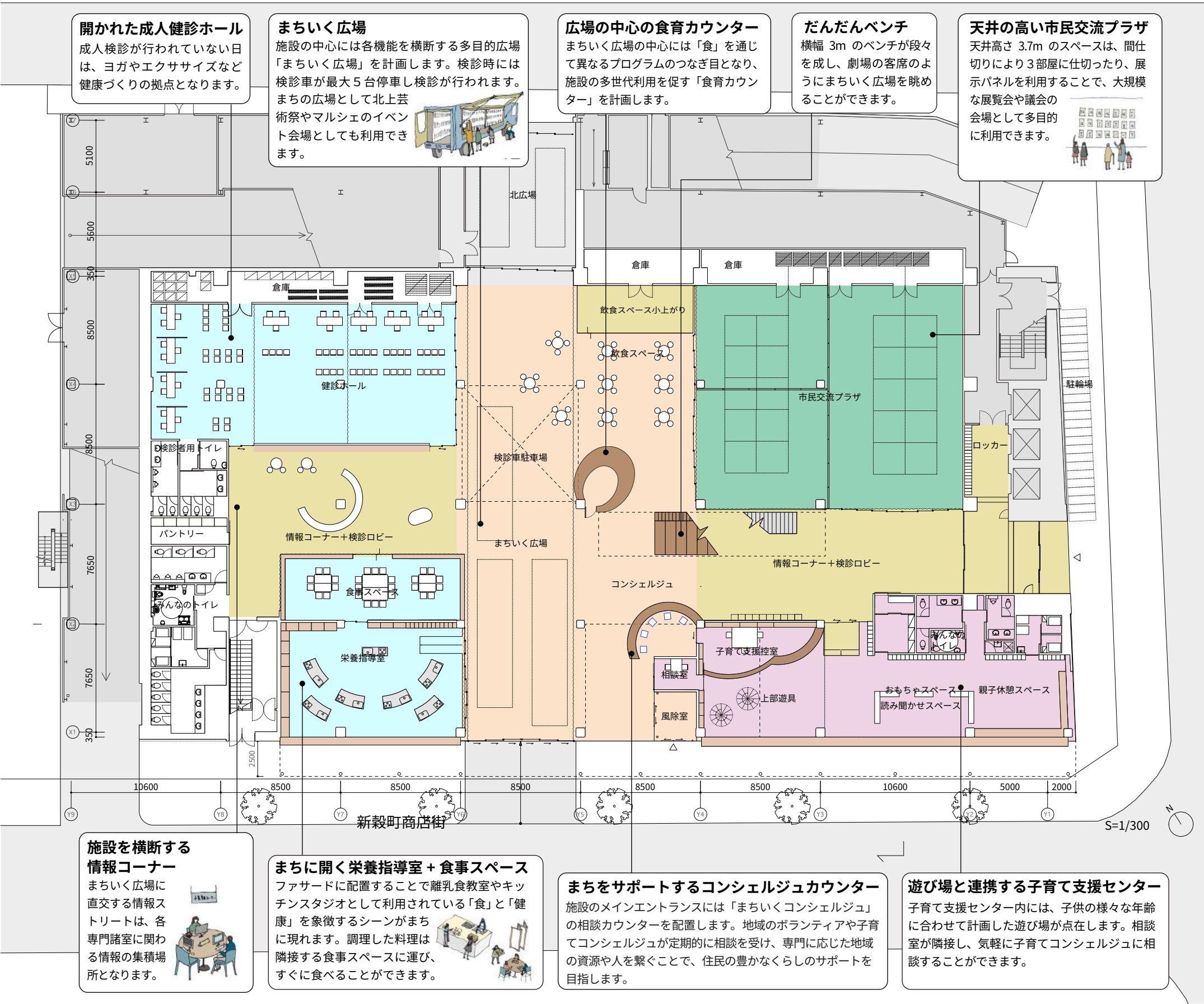
子育て支援機能

遊び場、子育て支援センター、一時的保育室

子ども、子育て家庭の支援のための事業（地域子ども・子育て支援事業）を実施する機能。

- ・地域子育て支援実施機能
- ・一時的保育事業実施機能
- ・子育てコンシェルジュ機能
- ・子育て援助支援事業
- ・子どもの室内遊び場機能





まちいく広場から栄養指導室と食事スペースを見る



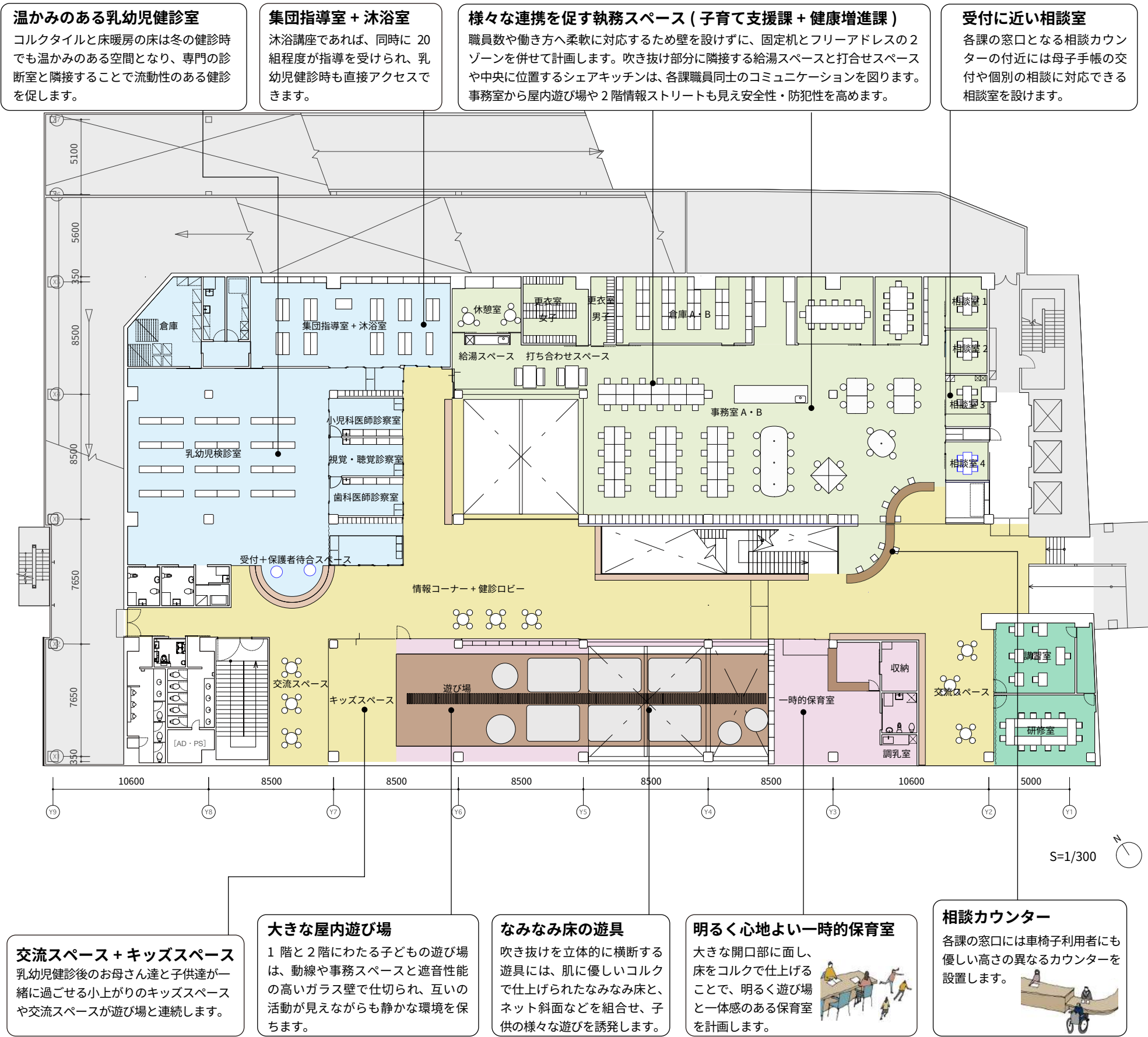
親子休憩スペースとおもちゃスペース



展示や会議に利用できる市民交流プラザ



まちいく広場に機能を拡張できる健診ホール



遊び場と隣接した一時的保育室



床に座っても暖かみのあるコルク床の乳幼児健診室



親しみやすい、共用部に開かれた事務室受付スペース



■構造計画について

・適切な構造改修計画

十分な耐震性能を有する既存建物の構造躯体を活かして、基本的に、1～2階の構造躯体を現状のまま維持し、内外装のリノベーションを中心に、旧商業施設のエスカレーターから新設の鉄骨階段への付替や、子どものための遊具等の設置など、付属物の新設を中心とした改修工事の構造計画とします。

・既存躯体の耐震性能を保持

既存建物の主要な架構は、柱をコンクリート充填鋼管構造（CFT）、梁を鉄骨造としたラーメン構造です。ラーメン構造の骨組は平面的にバランスよく配置され、高さ方向にも極端に剛性や耐力が低い層がないように計画されています。改修工事では、バランスよく計画された主架構を維持し、継続して保持します。

・安全な構造の新設遊具

新設の遊具は鉄骨造の骨組として、常時も地震時も過度に変形することなく安全な設備とします。設置は、既存の構造躯体の主架構である柱梁に対して、地震時にも脱落や破損が生じることのないように、十分な強度をもって取り付けます。

■環境設備計画について

・適切なゾーニング計画

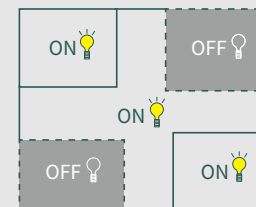
大空間が緩やかにつながる計画に合わせ、空調や照明システムにおいても大きなゾーニングを想定しながらも、それぞれのゾーニングに見合った運転及び制御を可能とすることで使い勝手が良く、かつ省エネルギーとなる計画とする。

・省エネルギー機器の採用

照明計画はLEDを基本とし、数量の多い衛生器具も超節水器具を採用する。空調冷温水制御も2方弁制御するなど、テナント計画の中で採用可能な省エネルギー機器及びシステムを最大限に取り入れる計画とする。

・適切なルート計画

本建物の特徴であるテナントビルとしての特徴を把握し、1次側設備ルートは手を加えず、2次側設備ルートの効率的な計画を行う。天井形状に合わせてダクトや配管、配線を効率良く計画し、省スペースを可能とし、室内空間を最大限に確保することが可能な設備計画とする。



■ランニングコスト低減について

・底による日射遮蔽

1階外部に底を設置することにより日射遮蔽を行い、最大2割程度の冷房ランニングコストの削減を可能としている。

・昼光利用と断熱効果

外壁をALCからlow-eペアガラスへの変更を行う。断熱性能はALCと同等程度の性能を確保しつつ、明るい室内の確保が可能となる。昼光を最大限に活用し、照明ランニングコストの低減及び開放的で気持ち良い空間造りを可能としている。

・節水機器及び井水対応機器

衛生器具は超節水器具を積極的に採用する。老若男女問わず使いやすい操作性の良い器具を選定し、さらに井水対応機器として維持管理のしやすさを考慮する。

